



発行日 2020年4月8日 54号
発行 相原まちづくり協議会
責任者 理事長 土田 恭義
所在地 町田市相原町 597-56
電話 042 (774) 2982

相原まちづくり協議会

検索

夕焼け小焼けの石碑を建てよう!!

相原地域にゆかりのある中村雨紅が作詞した童謡「夕焼け小焼け」が誕生して、百周年を迎えました。この記念すべき時期をとらえ、この歴史的事実を次の世代に確実に伝承していくために、平成22年に中相原地区の中村邸に、さらに平成24年に町田市立相原小学校校庭に設置した金属製の歌碑に加え、



現在の歌碑

百周年記念事業として後世に永く伝承できる石造の歌碑を諏訪神社敷地内に建立することを目的に、相原地域の世話人の方々をはじめ相原各地域にお住いの皆様のご理解ご

協力をいただき募金活動を展開してまいりたいと思います※。

相原まちづくり協議会 理事長 土田 恭義



歌碑の建立予定場所

歌碑のイメージ

世話人

八木 邦治 氏 (相原東部地区)
吉野 光章 氏 (相原中部地区)
河内 一 氏 (相原西部地区)
横溝 廣喜 氏 (諏訪神社氏子会)
井上 正行 氏 (相原地区連合町内会)

※募金活動の開始時期・石碑建立については、国内の新型コロナウイルスの感染状況を見据えながら今後取り組む予定です。

第22回まちづくり講演会

令和元年11月23日堺市民センター2Fホールで第22回まちづくり講演会が開催され100名以上の来場がありました。会場内には横浜線を走っていたSLの写真や懐かしい昭和時代の相原駅の写真も展示され来場者の見入る姿がありました。また元橋町会故荒井秀雄氏

が作成した相原駅開業当時の模型も展示され、その精巧な姿に皆さん驚かれたようでした。



1. 夕焼け小焼け物語 相原まちづくり協議会 副理事長 守屋松則



平成元年の調査「にほんのうた・ふるさとのうた100曲」のベスト10には次の曲が選ばれています。赤とんぼ、② 故郷、③ 夕焼け小焼

け、④ 朧月夜、⑤ 月の砂漠、⑥ みかんの花さく丘、⑦ 荒城の月、⑧ 七つの子、⑨ 春の小川、⑩ 浜辺の歌、どれも一度は口ずさんだり、母がうたうのを聞いて育ったのではないのでしょうか？
これらの「にほんのうた・ふるさとのうた」は明治から大正にかけて誕生しています。(2ページへつづく)

相原まちづくり協議会は、11町会 自治会から推薦された理事・監査で運営されています

もともと子供が口ずさむ歌には、わらべ歌があり、それが明治に入り西洋音楽を取り入れた情操教育がはじまり、



文部省唱歌が登場します。海外の民謡の曲に日本の歌詞を組み合わせたものが数多く登場します。

大正に入り大正デモクラシーといわれる自由主義・民主主義の思潮が花開いた時期、子供の生活実感から離れた文部省唱歌ではなく、



「もっと子供の心に響く音楽を」の思想から生まれたのが童謡です。大正8年(1918年)に小説家鈴木三重吉は児童雑誌「赤い鳥」を創刊しました。それに刺激を受け「金の船」や「おとぎの世界」等児童雑誌が次々に創刊され、これらの中で唱歌ではなくもっと子供の心に響く音楽を世に出そうという運動が始まります。

翌大正8年(1919年)カナリアが掲載されこれを皮切りに多くの童謡が発表されるようになります。この「赤い鳥」に童謡が登場してちょうど100年目にあたる2019年には国内で童謡生誕100周年の行事が数多く行われました。作詞家としては野口雨情、北原白秋・高野辰之・サトウハチロー・中村雨紅・・・作曲家としては中山新平・山田幸作・岡野定一・本居長世・滝廉太郎・草川信・・・

中村雨紅は「夕焼け小焼けの」の情景は、「場所は特定できないが、幼いころから、ああいう情景が心に染み込んでいたのが郷愁などの感傷も加わって作詞されたのではかと思う・・・」と語っています。中村雨紅は1897年(明治30年)八王子市恩方に高井家の次男として誕生。20歳になった1917年(大



中村雨紅

正6年)に叔母の嫁ぎ先である相原の中村家に養子として入籍します。中村家は代々諏訪神社の神官を受け継いでいます。ペンネーム中村雨紅は中村家の中村と尊敬する野口雨情の雨と染まるという意味の紅から作られたそうです。夕焼け小焼けの歌詞は1919年(大正8年)に作詞されています。1923年(大正12年)に神田のピアノ輸入商から、買ったお客さんに付録として教則本を作りたいとの依頼により4曲を提供、その中に「夕焼け小焼け」は含まれていました。

楽譜も印刷され準備が整った9月1日、あの関東大震災が襲います。教則本は奇跡的に残った13冊以外はすべて焼失してしまったそうです。その13冊から細々と歌い継がれて現在に至っています。ラジオの無い時代です。レコードや演奏会が細々とラジオが普及するまでをつないだのでしょう。相原の中村家から夕焼けを望む景色はまさに歌詞の情景です。昔は夕方になると何十羽となくカラスが津久井を目指して夕焼けの中を飛んで行ったそうです。また、世に出なかった中村雨紅作詞の歌2曲が、堺中学校の合唱部員によるコーラスを録音したもので披露されました。



写真は昭和5年発売の蓄音機で当時のレコードの音色を再現(中村在住の渡辺氏)

相原にゆかりのある「夕焼け小焼け」ですが、記念となる石碑がありません。全国のゆかりの地(日暮里、厚木、長野、世田谷等)には合わせると十数基の石碑が記念として建立されています。

当協議会では「夕焼け小焼けの会」を立ち上げ、ゆかりの地である相原にも記念の石碑をゆかりの諏訪神社境内に建立すべく募金活動を開始いたします。できるだけ多くの方から寄付をつのり、夕焼け小焼けは相原ゆかりの歌であることを後世に伝えたいと思います。ぜひご協力ください。

相原まちづくり協議会は、11町会 自治会から推薦された理事・監査で運営されています

2. 横浜線物語 株式会社ニイサンマル 代表 サトウマコト氏



今後、横浜線は大きく変わることはないと思いますが、橋本から茅ヶ崎に行く相模線は複線化の話などあり

大きく変わる可能性があります。また小田急多摩線は唐木田から上溝まで延伸する計画です。横浜線の始まりは、1908年（明治41年）に私鉄（横浜鉄道）として開業しました。しかし赤字の為、大正6年に国に売却されました。その後、横浜から町田まで電化が進みましたが町田から八王子は、煙を吐いて蒸気機関車やディーゼル車が走ってしまし

た。しかし昭和16年日米の開戦を境に貴重な燃料を使わないよう水力発電による電化が進められました。

また町田や相模原地域の軍事工場などの変遷や移り変わる街の様子など多岐に渡り大変興味深い講演となりました。

サトウマコト氏には、2008年の横浜線開通相模原駅開業100周年にもお話頂いています。また著書の一部を境市民センターに寄贈して頂きました。



3. 相原と自由民権運動 町田市自由民権資料館 学芸員 松崎実氏



自由民権運動という、一般的には、政治に参加、要求することが自由民権運動だというふうに紹介され

ていますが、具体的には「国会」を作りたい、「憲法」を作りたいと明治政府に要求する運動です。もうひとつ重要な要素があります。一般の人々に対して『国や社会のことを自分のこととして、ちゃんと考える人間になれ』ということになります。そういうのが民権運動をやっている人たちということになります。民権家達は知識を高め、伝えるために、結社や、政党を作りました。鶴川の結社と、原町田に牛官舎という結社ができ、事務所が置かれてここにおそらく相原の人たちも参加していたと思われます。場所は、自由党員の渋谷三郎の家でした。（渋谷三郎という方は樋口一葉の婚約者だった人で、樋口一葉を振った男です）結社が集り政党になり、町田周辺の方達は、板垣退助の自由党に入ることになります。運動の手法としては、演説会とか討論会を開きます。目的は、議論することによって理論構築する能力を高めることです。新聞も演説も雑誌も言論

もすべて自由民権運動と共に発展し、社会の中に定着しました。大日本帝国憲法ができ、国会ができ、衆議院選挙が実施されて、自由民権運動が終わりになるのかなと思います。明治14年1月30日に原町田で、武相懇親会が開かれ49村、7郡、203名参加されました。資料によりますと、末広重康、松沢久作、肥塚亮、上条信二の4名が演説するために招待され、相原から吉川邦吉、松井太郎衛門、青木芳齋、青木正太郎、斎藤守行、島崎正剛の6人が参加したことがわかっています。相原にあった養明館をご存知ですか？村に1校という決まりがあり、青木家で造った学校です。申請書を見ましたが、相原430番地で国道16号交差点の少し西側にあたります。明治16年頃、青木家の隣に移ったようです。この私立の小学校に、中島信之という方呼んで講演会を開いた記録が残っています。（中島信之は、元神奈川県令（今の県知事）で、初代の衆議院議長です。（奥様は岸田敏子で、女性自由民権運動家）当時、演説会は、お金を払って聴くものです。立錫の余地がないほどで、パフォーマンスを楽しむものだったようです。演説会の受け皿は「学校」でした。小学校は、田舎の村にとって、唯一近代になって大きく変わったところ、近代の象徴的な場所、文明開化の象徴的な場所でした。そこで開くというのが大きな意味が

あったと思います。そして、こんな話もありました。「相原が東京府に編入されたのは明治23年です。それまでは神奈川県でした。東京府としては、「水道の水源が他県にあることは問題である」と奥多摩（北多摩郡）を東京府に編入したかったようです。その時の神奈川県知事は北多摩郡だけでなく町田や八王子（南多摩郡）も引き取ってくれるなら奥多摩の東京府への編入を認める。と提案したようです。この時代「町田や八王子は自由民権運

動でうるさい輩が多い。この際一緒に引き取ってもらいたい」というのが本音だったのではないかというのがまことしやかに語り継がれています。



展示された開業当時の相原駅と蒸気機関車の模型

下相原連合町会 自主防災隊会意見交換会 下相原連合会長 原 義浩



2019年12月1日元橋会館で第一回の下相原連合町会、境町会、坂下町会、元橋町会、仲町町会、陽田町会、中村町会の自主防災隊と町田市消防団第5分団第4部による意見交換と親睦会が行われました。

号よる、坂下さくら会館付近のがけ崩れ時の様子や避難についての説明があり、災害に直面した時の避難の難しさや、消防団等の危険を伴う懸命な作業について説明がありました。

各町会の防災活動の発表と質疑応答では、活発な意見交換が行われ、町会で個々に防災対策の取り組みに違いはありますが、より良い体制づくりへと繋がり、万が一の時には、町会の枠を超えて協力し合える一歩となる意見交換会になりました。

また、東京消防庁西町田出張所 池田所長から坂下町会に感謝状が贈られました。



直近の情報として東京消防庁西町田出張所（所長）から台風19

まちづくり講演会を聞いて
理事 高橋 八州太郎
約三十五年前に東京の足立区から結婚を機にこの相原に居住するようになりました。大賀ハスや、八木重吉という歌人も身近に感じていましたが、今回の講演会で新たに、横浜線や人権運動の話し、また町田市が神奈川県から東京府になった歴史的背景や、夕焼け小焼けの歌の誕生の経緯等を聞き、改めて「相原」という地域を見直す講演会だったと思います。

思えば、初めて相原駅に降り立った時の感動、驚きました。木造の駅舎で、自由に駅の反対側に行けない不便さ、整備された今から思うととても懐かしく思います。今、西口にはバスが入り、タクシ、自家用車も乗入することができる駅前広場が整備され、様相が一変しました。

橋本にはリニア新幹線の新駅設置、大戸踏切のアンダーパス等。そんな変わる相原をより良い「まち」にするように皆で考えて行きたいと思うきっかけになりました。

「夕焼け小焼け」の歌詞が、関東大震災の大災害にもめげず、十三枚残ったという話を聞いたとき、文化というものは「守る」もの、守るからこそ、「後世に伝えることができるんだな」ということを現代目線で感じました。そういう意味では「夕焼け小焼け」が相原ゆかりの詩であるということが、そしてまさにゆかりのある諏訪神社に石碑が建てられるは、「相原」とよつての宝、「地域資源」になることだと思えます。

相原まちづくり協議会は、11町会 自治会から推薦された理事・監査で運営されています